

(1) ② ~~③~~ ~~④~~ (アヤマ)

イ、原文（开策・ヲシテ表記）

○
⊖
⊖

① 田 子 子 田 田 ① ① ① ①

史丹①
 ② ③ ④ ⑤ ⑥
 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

開田寺田 本寺田

元本太

口、力ナ表記

アヤマ

アノヤマノ
ナカウツ

口牛ガ
アワノスナ
コホ

シノエナノ ムネゾア

ミケル

八、直訳文（現在語表記）

アヤマ

アのヤマの
中ウツ

口牛が
アワの砂
九星

の胞衣のむねぞ編

みける

二、アヤマの解説

アヤマとは、古代の宇宙史観を顧みる占いです。

壮大なア（天・宇宙）のことです。クニタマ（地球）では天中主神の御世の頃になります。ウツホ（地球の大気圏）のヤマ（山）の中に住んでいたウツロキが、フトマニ図の中心に鎮座する天中主神より勅を受けました。勅の内容は、「ウツロキの皆で、天（宇宙）に点在する地の砂（宇宙の塵）を浚って、九星（次頁③九星を参照）の胞衣（宇宙での九星神の座る定位置）の宗（おおもと）ぞとなる神座を編みける（編み上げる）」とのことでした。

(補足説明・アヤマを紐解く鍵)

「アヤマ」を現在文に書き直しますと、左文のようになります。

天山

天の山の 中ウツ

ロキが アワの砂 九星

の胞衣の むねぞ編

みける

そして、「中」「ウツロキ」「アワの砂」より連想されるホツマの文章は、24アヤ(綾)41ゝ42になるようです。だが、この文章の元は、アマテル神の孫のニニキネの御世であり、年代は29鈴501枝38穂の如月過ぎであり、フトマニが作られた以降の記述になるようです。

24アヤ(綾)41ゝ42

「中の地もがな ウツロキが アワ海浚え 三尾の地と 人担い来て 朝の間に 中峰な

せば 神の名も キヅ朝間峰」

そこで、この「アヤマ」を紐解く鍵を、「中」「ウツロキ」「アワ」以外の①「天の山」、

②「アワの砂」、③「九星の胞衣」、④「むね」、⑤「編みける」から調べて見ました。

調査結果

① 「アヤマ」は、ホツマ、ミカサフミには記述されない言葉のようです。

② 「アワの砂」を一音節に分解して、それぞれを訳しますと、「ア」は天、「ワ」は地になり「アワの砂」は「天地の砂」に置き換えることができます。

③ 「九星の胞衣」の「九星」は、天常立神の九星を云い、更に、九星は、天上に居ます御中主神(1神)と、その外周に居ます元々神(8神)を意味し、「胞衣」の意味は、胎児を包んでいた膜や胎盤などから、胎星を包んでいた宇宙となり、「九星の胞衣」は御中主神、元々神(8神)を包む宇宙を意味するようです。

④ 「むね」を現在文にしますと「宗」になり、「おおもと」を意味します。

⑤ 「編みける」の「編む」は、何もない所から「あるもの」を用いて、からませて作るようになるようです。前述のように調べて来ますと、「九星(御中主神他)の胞衣」「宗(おおもと)」が大きく意味を持って来るようであり、御中主神の云々と来ますと、年代的にはアマテル神より相当古代のようです。すると、「天の山」「天地の砂」の意味も変わって来て、この「アヤマ」の出来事は、クニタマ(地球)の創世記の出来事に由来する壮大な物語に思えて来ます。